おけと ものがたり vol.65

日本文化デザイン賞とサントリー地域文化賞受賞

日本文化デザイン賞と多田実波作の「極」

北海道では、さっぽろ雪まつり、知床100平方メートル運動しか受賞実績のない、日本文化デザイン会議賞（梅原猛代表）に昭和61年度、置戸町が選ばれ、齊藤町長が広島県広島市の授賞式に出席しました。授賞理由は、資源の見直しから生まれたオケクラフトを軸にした社会教育構想の具現化により、町づくりに活路を開いた知恵とその推進力に対してとなっており、具体的には①社会教育を主眼とした過疎対策、②オケクラフト、③新しい食文化の創造の３項目。置戸は社会教育を基礎にした、もろもろの人づくり、モノづくりから、地域の暮らしを高めるオケクラフトの誕生となり、これが料理や、しろ花豆焼酎への広がりを見せたところに、斬新な問題提起があったとして、日本文化デザイン会議賞が与えられました。副賞には彫刻家多田実波デザインによる「極」の置物が贈られました。

また、翌62年５月には、地域における画期的、独創的な活動を通じ、地域社会の文化向上に貢献したとして、「おけと人間ばん馬」にサントリー文化財団のサントリー地域文化賞（副賞100万円）が贈られました。サントリー文化財団の地域文化賞は、同62年度に９回目となり、同年は全国から１個人と５団体に贈られました。また過去には道内から手づくりハム・ソーセージの製造で函館のカール・レイモン、優佳良織の木内綾、南茅部沿岸漁業大学、江差追分に次いでの受賞です。

なお、人間ばん馬は、同年６月発行の第239回全国自治宝くじの「地域活性化事業シリーズ」に取り上げられ、力強く丸太を曳く図柄の宝くじは好評でした。

（参照『置戸町史下巻』 ※文中人名敬称略）

気軽におくつろ木ください

オケクラフトSHOP「くつろ木」を開店した佐々木寛之さん・ひとみさん夫妻

寛之さんがオケクラフト作り手養成塾に入塾するために２人で置戸に来たのが４年前、２年の研修を終え共同工房でクラフト作りが軌道に乗りかけた頃、ひとみさんは以前に販売の仕事をしており、作ったものを説明して買ってもらえればと思い店を開くことを決意、町の未来の企業補助金制度を利用して拓殖に開店しました。

寛之さんのオケクラフト「白樺の詩（うた）」、ひとみさんのビーズアクセサリーを中心に置戸に関連したシラカバ樹皮加工品、エゾシカの革製品、毛糸の編み物などを展示、販売しています。カフェスペースもあり、ひとみさんは「おいしいコーヒーを入れてお待ちしております」と来店を心待ちにしています。営業は金、土、日曜日と祝日の午前10時から午後７時。ブログ「くつろ木たいむ」も公開中。

お問い合わせはひとみさん（☎090-8425-2950）